



地本
支社間

『電気部門の変革2022』について 『提案』を受ける！ その②

◆標準数 ※1 実施後の「標準数」は、施策最終年度のものを示す。記載の標準数に変更が生じる場合は「修正提案」となる。

	実施前	実施後 (※1)	増減	内訳
千葉電力 技術センター	管理 25 一般 109	管理 25 一般 95	管理 ± 0 一般 △14	・銚子・館山メセ統廃合 △9 ・モニタリング導入 △4(千葉以东メセ中心) ・設計業務簡素化 △1
千葉信号通信 技術センター	管理 16 一般 62	管理 16 一般 51	管理 ± 0 一般 △11	・銚子・館山メセ統廃合 △10 ・設計業務簡素化 △1
津田沼信号 技術センター	管理 13 一般 49	管理 13 一般 48	管理 ± 0 一般 △1	・設計業務簡素化 △1

◆提案段階での主な説明事項

(1)電気部門の在来線の効率的なメンテナンスの実施

- ・電力/信号ともに、成田メセ・木更津メセの標準数を管理+1、一般+1とする
- ・成田メセ・木更津メセには副メセ長を配置する（成田メセは副メセ長が2人体制となる）
- ・T E M Sのサービスセンター（S C）は成田と木更津にある。（木更津は社屋を新築し移転）
銚子・館山エリアの保守は、T E M Sの成田・木更津S Cが行う。銚子・館山にS Cは設けない。
- ・T E M Sへの移管に伴い、出向が生じる可能性がある。
出向は7年育成プランを終えていなくても、ノウハウがあれば出向する可能性はある。

(2)スマートメンテナンス導入等による業務のスリム化

- ・信号部門では、モニタリング対象機器の検査をすでにP社が担当していることから、モニタリング導入以降もJR本体としての標準数に変化は生じない。
- ・電力のインテグレート架線化は支社境界～錦糸町間から進める。設計は東京電気システム開発工事事務所、施工はインテグレート架線を専門とするパートナー会社が担うため、千葉支社管内の電力社員の業務量に大きな変化は生じない。

(3)技術センターにおける業務の簡素化

- ・電力部門の「変電設計1・2科」は、同じ業務を担当線区によって区分けしていたが、実際は線区で分ける必要性がなく、非効率なことから統合する。統合後は標準数を一般+1とする。
- ・電力部門の「システム科」は、設備管理システムの精度向上等を見据え標準数を一般+1とする。
- ・通信部門は、これまで有線/無線で科を分けていたが、有線の設備を無線化できるようになるなど、有線/無線という線引きが技術の進歩に合わなくなっていることから、区分け方法を変更する。
通信部門総体の現行標準数は管理2、一般13。科の区分け変更後も総体の標準数は変わらない。
「情報通信工事科」と「情報通信保全科」にどのように要員を振り分けるのかは検討中。
- ・信号技術者認定制度の対象機器は、現在本社で検討している。

**電気部門で働く仲間の「安全・健康・ゆとり・働きがい」の向上と、
技術力が高く異常時に強い職場を創るため、申し入れ・団体交渉を行います。**

皆さんの声を、地本および工務部会へお寄せ下さい！

※地本ホームページにて投稿もできます。ぜひご活用下さい！